

P01a 「あかり」遠赤外線全天サーベイカタログの公開

山村一誠、巻内慎一郎、池田紀夫、福田友紀子、山内千里、長谷川直、馬場肇、中川貴雄 (ISAS/JAXA), W.S. Jeong (KASI), S.H. Oh, H.M. Lee (SNU), N. Rahman, M. Thomson, S. Oliver (Univ. of Sussex), E. Figueredo, S. Serjeant, G. White (Open Univ.), C. Pearson (RAL), L. Wang, M. Rowan-Robinson (Imperial College), Do Kester (SRON), G. van der Wolk, P. Barthel (Univ. of Groningen), M. Cohen (UCB), Th. Mueller (MPE), Salama, C. Alfageme, P. Garcia-Lario, C. Stephenson (ESA), 他「あかり」チーム

赤外線天文衛星「あかり」による全天サーベイ点源天体カタログが、いよいよ2009年度末に一般に公開されることになった。

2006年5月より2007年8月まで、遠赤外線4バンド、中間赤外線2バンドで行われた「あかり」全天サーベイ観測データから作成された遠赤外線点源天体カタログは、波長65, 90, 140, 160 μm での天体の情報を提供する。2008年秋に初版 (Ver. -1) をチーム内に公開後、一層の性能向上を目指してデータ処理・キャリブレーションの改良を進めてきた。2009年秋に発行された Ver. -2 では、最も感度の良い90 μm での検出感度が約0.6 Jyに向上し、天体数も-1の4倍以上になる29万に達している。今回一般に公開されるのは、Ver. -2にさらに小改訂を行ったものである。カタログはファイル形式、およびJAXA宇宙科学研究本部のデータアーカイブDARTS上に構築された検索システム(山内らの講演)を通じて提供される。

高い空間分解能と100 μm を越える波長での flux 情報をもつ「あかり」遠赤外線カタログが、中間赤外線カタログ(石原他の講演)とともに、星形成・恒星進化・銀河進化など多様なサイエンスに対する基本資料として、広く使われることを期待している。本講演では、公開版カタログの性能・特性について報告する。